平成21年度　広島経済大学　学生懸賞論文

輸出依存から脱却する為には

～サブタイトルの予定～

広島経済大学　経済学部　ビジネス情報学科

1814103　兼安紘平

目次

1. はじめに

私が今回、この論文を執筆しようとしたきっかけは3年後半からの就職活動しようとしたときにリーマンショックによる金融危機がはじまり、一気に就職活動が売り手市場から買い手市場に変わってしまったことにある。

それまでの周囲の余裕だった空気が一転して殺伐とした空気に変わってしまい、私は日本の経済の危うさを身をもって感じた。特に日本は他国から資源を輸入して工業製品を製造して主に米国などに売る貿易で経済が成り立っていることから、リーマンショックによる米国の金融危機は日本にとって死活問題であり、日本の経済は米国が危機に陥れば同時に危機に陥ってしまう。どんなに日本の労働者が必死に働いても米国の放漫な経済活動によってすぐに日本経済がぐらついてしまうのだ。

日本の産業・経済は資源の乏しい国にしてはあり得ないくらいの工業国である。工業国というのは資源が豊富であれば強みになりえるが、資源が少ない国では工業製品の原料すらも資源の豊富な国から輸入をしなければならない。日本という国は資源を買う国と製品を売る国との間に挟まれどちらかの国が日本との関係を切ってしまえば日本は多分すぐに経済が失速し日本は終わってしまうだろう。これまではそのようなことは現実的では無かったかもしれないが、最近の金融危機により世界中のどの国も自国を保護する空気に包まれている。米国のオバマ大統領はバイ・アメリカン政策を訴え部品の調達までも自国で行おうとしている。日本の最大の貿易相手である米国がそのような立場をとれば日本はどうなってしまうのだろうか？

私はある一つの考えを持っている。それは日本の経済・産業構造を大幅に変えることである。現在日本は工業製品を主に輸出している貿易立国だが、これからは多方面での貿易立国を目指せば良いと考えている。今までの日本がハードパワーを全面に押し出している状態ならばこれからはソフトパワーを全面に押し出せば良いのではないだろうか。詳しく説明するならば日本が持っている技術・ブランドイメージを前面に押し出せば良い。たとえば、今までのゲーム産業やアニメーションを強化することはもちろんだが、日本独自のノウハウにロイヤリティを付け世界各国にばらまけば資源が乏しい日本でも十分な貿易ができる。何も相手を米国だけにする必要は無い。米国だけを相手にしているからこそ危険が高いのであり、世界各国を相手にすれば危険も分散でき、相手国の産業にも介入しないため貿易摩擦も起きにくいのではないだろうか。

このようにこれからの日本の経済・産業構造を柔軟に転換することができればもう米国の経済状態に一喜一憂することなく安心して日本のお父さん達が働くことができると私は考えている。もちろん今までの産業を捨てるのは勿体ないので維持したままで行くのが理想的な経済・産業構造が私の理想である。

参考文献

書籍

1. 福川伸次著，発行者　恩田敏夫（2004）,『活力ある産業経済モデルへの挑戦』,日経BP出版センター